コース案内

兵庫区を一望できる会下山公園界隈を巡りながら、
植物学者・牧野富太郎の足跡に思いをはせる。

明治時代後期、旧湊川の付け替えによって誕生し、市民の台所として栄えた湊川エリアと、“東の浅草、西の新開地”と謳われた新開地エリア。
この散策マップでは、日本の植物分類学の基礎を築き、「植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎ゆかりの会下山小公園と、神戸らしい眺望景観10選に選ばれた会下山公園周辺を歩きます。

A 新開地

“B面の神戸”として愛される神戸文化発祥の地

かつて「東の浅草、西の新開地」と謳われ、一大歓楽街だった新開地。喜劇王チャップリンがまちを訪れたことや、映画評論家の故・淀川長治さんが新開地で映画を観て育ったという話も有名です。戦後、テレビの普及や娯楽の多様化など時代の流れとともにまちの様相は移り変わりましたが、時代に流されることなく、それぞれの流儀を守り続けた老舗飲食店や、劇場・映画館が残り、現在も“B面の神戸”として多くの人に愛され続けています。

▲ 約350m　徒歩約５分 ▼

B 大楠公像（湊川公園）

躍動感あふれる湊川新開地のシンボル

昭和10（1935）年、大楠公六百年祭を記念して神戸新聞社が募金活動をし、寄贈された躍動感あふれる銅像。像は高さ約３メートルで、台座は2.5メートル。もとは公園南側に設置されていましたが、昭和46（1971）年、湊川公園駐車場建設のため北側に移設。兵庫区役所の建て替え工事に伴い、平成29（2017）年に仮移転。修復作業をおこなったのち、令和２（2020）年に新開地商店街から真正面に像が見える現在の場所に設置されました。

▲ 約1000m　徒歩約17分 ▼

C 牧野富太郎植物研究所跡（池長植物研究所跡）

神戸にもゆかりがあった植物学の父の痕跡

日本の植物分類学の基礎を築き、「植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎（令和５（2023）年度前期NHK連続テレビ小説「らんまん」のモデル）。幼い頃から植物が好きで、東京で本格的な研究に没頭。しかし大正５（1916）年、研究のための資料や文献集めの借金で経済的に困窮し、採取した植物標本を売らざるを得ない状況に。それを知った兵庫の富豪・池長孟が援助を申し出て、会下山に所有する「正元館」を研究所とし植物標本を引き取ることになりました。大正７（1918）年に開所式が行われましたが、標本整理はなかなか進まず、一般公開されることはありませんでした。昭和16（1941）年、研究所に保存されていた標本は、東京の牧野富太郎のもとへ返されました。現在、標本は東京都立大学牧野標本館に、図書等は高知県立牧野植物園に保管されています。

▲ 約200m　徒歩約４分 ▼

D 善光寺（平業盛の塚）

会下山にひっそり佇む少年業盛の塚所

大正６（1917）年、善光寺関西別院会下山寺として開創。天台宗に属し、比叡山延暦寺を総本山としています。境内には、この近くの草むらにあったという平業盛の塚が祀られています。業盛は平清盛の弟・教盛の三男。寿永３（1184）年、一ノ谷の戦いにおいて、源範頼の軍により17歳で戦死。少年業盛の剛勇と怪力に、その死は敵にも味方にも惜しまれました。石碑の文字は、兵庫の豪商・神田兵右衛門の筆によるもの。

▲ 約300m　徒歩約５分 ▼

E 楠木正成本陣の碑（湊川の戦い）

兵庫区が一望できるつわものどもが夢の跡

湊川合戦のときに、楠木正成が会下山に本陣を置いたと伝えられています。建武３（1336）年、足利尊氏・直義軍を後醍醐天皇の勅命で楠木正成・新田義貞軍が迎え撃ちましたが、天皇軍に利なく正成は弟正季と自刃、義貞は敗走。勝利した尊氏はやがて室町幕府を開きました。本陣の碑の文字は、日露戦争で活躍した東郷平八郎の筆によるもの。ここからの眺めは、神戸市が選定する「神戸らしい眺望景観10選」に選ばれています。

▲ 約550m　徒歩約８分 ▼

F 湊川隧道

神戸の発展の一助となった近代土木遺産

明治34（1901）年に完成した日本初の河川トンネルで、全長は約600m、高さ7.6m、幅7.3m。完成当時は世界最大級のトンネルでした。阪神淡路大震災で一部崩壊したため、平成12（2000）年に完成した新湊川トンネルに河川トンネルとしてのバトンを手渡すこととなりました。現在は近代土木遺産としての価値をたくさんの人に知ってもらえるよう、毎月第３土曜日のみ一般公開をおこなっています。国の登録有形文化財。

▲ 約450m　徒歩約６分 ▼

G 神戸新鮮市場

まち歩きが楽しい西日本最大級の市場・商店街

“神戸の台所”と謳われる「神戸新鮮市場」は、マルシン市場、東山商店街、ハートフルみなとがわ、湊川商店街（湊川パークタウン）で構成。ピチピチと跳ねる昼網の魚、鮮度抜群の野菜や果物、和牛専門店のお肉、朝引きの若鶏など、厳選された新鮮な食材のほか、衣料品や雑貨のお店など約500店舗が軒を連ねる西日本最大級の市場・商店街。三宮・元町の飲食店も仕入れに訪れています。お買いものだけでなく、まち歩き、食べ歩きも楽しめます。

コラム

湊川隧道

国登録有形文化財・土木学会推奨土木遺産
日本初の河川トンネル

かつて、湊川は、石井川と天王谷川が合流する地点から、現在の東山商店街・湊川公園・新開地商店街を通って、川崎重工がある海まで流れていました。この旧湊川は、堤防の高さが６mにもなる天井川で、兵庫と神戸のまちを分断するかたちで流れていたため、交通や流通、経済の妨げとなっていました。また、大雨が降るとたびたび洪水を起こし、大きな被害がもたらされてきました。そしてもうひとつ、湊川から流出する大量の土砂が海に流れ込むことによって海が浅くなり、大きな船が入港できなくなって神戸港の機能が低下することも指摘されていました。

そこで、当時の実業家たちが発起人となって出資をし、湊川の改修工事がいよいよ動き始めます。流路については色々な案が出ましたが、最終的には会下山の下にトンネルを通し、長田神社八雲橋下手で苅藻川と合流。苅藻川の川幅を広げて東尻池の海岸へ注ぐこととなります。

その会下山の下に造られたトンネルが「湊川隧道」です。完成は明治34（1901）年。日本で初めての河川トンネルで、全長は約600m、高さ7.6m、幅7.3m。完成当時は世界最大級のトンネルでした。断面形状は馬蹄形、壁と天井のアーチは煉瓦造り、インバートと言われる底の部分には、流れる水や土砂が川床を洗い流したり削ってしまったりすることを防ぐために、３、４段に積まれたレンガの上に花崗岩の切り石が並べられるなど、河川トンネルとしての機能が損なわれることのないよう、構造や材料にさまざまな工夫が施されていて、その当時の土木技術を結集したということがわかります。

平成７（1995）年に発生した阪神・淡路大震災で一部崩壊したため、平成12（2000）年に完成した新湊川トンネルに河川としてのバトンを手渡すこととなりました。その後、保存が決まり、現在は毎月第３土曜日に一般公開やミニコンサートを開催するほか、土木の日（11月18日）のイベントとして、年に１回「新湊川ウォーク～湊川隧道通り抜け～」が行われています。

ちなみに「湊川隧道」は、もとは「会下山トンネル」という通称で呼ばれていました。阪神・淡路大震災後で被災したトンネルの復旧工事の際の記録写真で、銘板に「湊川隧道」と書かれていることがわかり、平成12（2000）年の「第１回会下山トンネル保存検討委員会」で正式名称に変更することになりました。

兵庫区には、この湊川隧道のほか、鳥原貯水池、兵庫運河という、明治時代の神戸三大土木事業と言われる近代土木遺産が存在します。

植物学者「牧野富太郎」と神戸市兵庫区にあった「池長植物研究所」

兵庫区の会下山小公園には、大正～昭和初期に「池長植物研究所」がありました。この研究所は、植物分類学の大家、牧野富太郎（1862-1957）と、牧野の援助者で、のちに南蛮美術コレクターとなった池長孟（1891-1955）をはじめとする神戸の人々との奥深い交流のきっかけとなった場所です。

牧野富太郎は、1500種以上の植物に学名をつけた植物分類学者で、日本植物学の父ともよばれています。高知県佐川町の造り酒屋に生まれ、幼いころから熱心に植物を観察して、和洋の書籍で独学を進めました。兵庫県立病院附属医学校から高知中学校に異動した博学の永沼小一郎と知り合い、西洋の近代植物学を深く知るようになりました。

明治14（1881）年、二十歳になった牧野は東京に出向き、勧業博覧会や小石川植物園などを見学し、あこがれの学者、田中芳男や小野職愨らとも面会して、植物研究へ打ち込む決意をします。その旅で神戸を経由していて、瀬戸内海の船上から見た六甲山は禿山で白く見えて、「雪が積もっているのかと思った」と書いています。

明治17（1884）年、牧野は東京大学理学部植物学教室（小石川植物園）の出入りを許され、研究活動は次第に東京になっていきます。明治22（1889）年に日本人として初めて、植物の新種として、「ヤマトグサ」の学名を発表しました。続けて多数の学名や和名を発表します。東京大学にあった明治12（1879）年の摩耶山産のマヤランの標本について関心を持ち、マヤランの研究も進めました。

一方で、牧野は植物研究のためには私財も惜しまず、巨額の借金をつくってしまいます。ついには、長年に渡って集めた膨大な植物標本を売却せざるを得ない状況になり、大正５（1916）年に大阪朝日新聞が牧野の窮状を報道しました。これに対して、神戸から二人の援助の申し出がありました。池長孟と日立製作所などを設立した実業家、久原房之助（1869-1965）でした。新聞社の長谷川如是閑（1875-1969）の仲介により、池長が援助することとなり、牧野の借金を返済するために標本を買い取ること、会下山公園にあった正元館を「池長植物研究所」として標本を保管し、植物標本陳列館とすること、研究の援助をすることなどが決まりました。

大正６（1917）年以降、牧野と池長は名和昆虫館（岐阜市）、淡路出身の平瀬與一郎（1859-1925）の平瀬介類館（京都市）、矢倉和三郎（1875-1944）の舞子介類館などの見学、六甲山での植物採集を行い、大正７（1918）年に池長植物研究所の開所式を迎えました。

その後牧野は神戸周辺での採集会や講演にも出向き、西宮高等女学校校長の山鳥吉五郎、灘中学の川崎正悦などの植物研究家との交流を深めていきました。一方、池長は兵役に入り、除隊後は社会貢献を意図して、南蛮美術の蒐集に向かい、有名な「聖フランシスコ・ザビエル像」（現・神戸市立博物館蔵）も入手しました。

しかしながら、牧野の植物標本作成は精緻を極め、時間がかかり、結局、植物標本陳列館の完成までには至らず、会下山にあった植物標本と文献を東京の牧野の元に戻すこととなりました。

池長美術館前の池長孟（左）と牧野富太郎（右）
神戸市立博物館蔵

兵庫区歴史さんぽ道シリーズ

湊川新開地・会下山

植物学者・牧野富太郎ゆかりの地を訪ねて

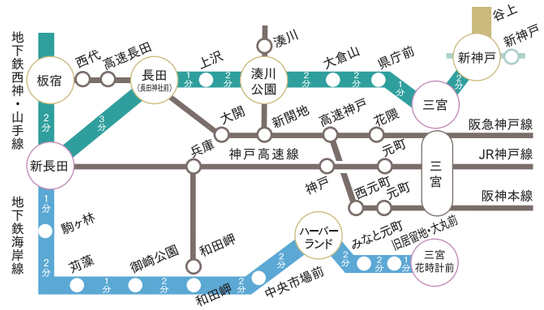
牧野富太郎
高知県立牧野植物園提供

新開地

湊川隧道

会下山空撮

コース周辺鉄道路線案内



○ 市営地下鉄他社線のりかえ駅
○ 市営地下鉄西神・山手線／海岸線のりかえ駅、他社線のりかえ駅

本コースの最寄り駅

- ●市営地下鉄西神・山手線「湊川公園駅」（「三宮駅」より約5分）
- ●神戸高速線「新開地駅」（阪急・阪神各「三宮駅」より約5分）
- ●神戸電鉄「湊川駅」（「新開地駅」より約1分）

発行／神戸市兵庫区役所
協力／ひょうご観光ボランティア、兵庫県立人と自然の博物館研究員 鈴木武
令和５年２月発行（令和５年５月改訂）

KOBE CITY of DESIGN

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この散策マップは、古紙配合再生紙を使用しています。

湊川新開地・会下山

植物学者・牧野富太郎
ゆかりの地を訪ねて

MAP

コース付近のみどころ

神戸新開地・喜楽館
MAP ❶

新開地に誕生した兵庫県で唯一の上方落語の定席

かつては神戸随一の歓楽街で演芸場・神戸松竹座があった歴史や、現在でも地域寄席が盛んであることから、上方落語協会、兵庫県、神戸市、新開地まちづくりNPOが協力して平成30(2018)年にオープン。笑いの殿堂として上方落語の公演が毎日行われています。

パルシネマしんこうえん
MAP ❷

関西一円の映画ファンが集まる名画座

昭和46(1971)年に開館した名画座。ロードショーが終了した作品の中から厳選した名画を二本立てで上映。２作品の組み合わせが絶妙で、関西一円の映画ファンに支持されています。二本立て上映以外にも、朝イチのモーニングショー“朝パル”や“夜パル”も実施中。

東山追分地蔵
MAP ❸

子どもたちを見守るかつての街道の分岐点

東山町４丁目の交差点にいるお地蔵さん。右に行けば石井、烏原、山田。左に行けば、夢野、三木という道標もあり、ここが街道の分岐点であったことがわかります。８月の地蔵盆の時期には提灯が飾られ地域の子どもたちで賑わいます。

神戸電鉄ビューポイント
MAP ❹

急勾配を駆け上がる姿はまるで銀河鉄道999?!

箱根登山鉄道、富士急行、大井川鐵道、叡山電鉄、南海電気鉄道と並んで「全国登山鉄道‰(パーミル)会」に所属する登山鉄道。湊川駅を出発して急勾配を駆け上がる列車は見ごたえがあります。湊川隧道入口付近がベストビューポイント。

新湊川
MAP ❺

度重なる氾濫と東西交通の妨げにより付け替え

天王谷川と石井川が合流する菊水橋付近から現在の湊川公園を経て、新開地方面から海に注いでいた旧湊川は、明治29(1896)年の大洪水を契機に付け替えられました。明治34(1901)年、会下山をくり抜いた湊川隧道を流れ、苅藻川に合流する新湊川が誕生しました。平成７(1995)年、阪神・淡路大震災により湊川隧道が被災したため、新湊川トンネルが建設され、湊川隧道は河川としての役割を終えました。

会下山公園上空からの眺望

牧野富太郎にちなむ植物

会下山小公園で見られる

スエコザサ

昭和２(1927)年に仙台で見つかったササ。優美で、広めの葉の裏には細かい白毛がある。同年に亡くなった妻、寿衛子を偲んで命名した。

会下山小公園で見られる

ノジギク

明治17(1884)年に高知県吾川郡で発見して、ノジギクの和名を与えた。姫路市大塩のノジギクの大群落を絶賛した。兵庫県の県花。

会下山小公園で見られる

クロガネモチ

公園などに植栽される樹木。昭和29(1954)年に牧野が川崎正悦氏にあてた葉書では、旧池長植物研究所入口の左側に植えられており、東京では見かけないため、その枝を送るように依頼していた。